

# 長崎短期大学生のHSK 受験結果報告と分析

## Report and analysis of HSK test results of Nagasaki Junior college students

章 潔

### 要旨

HSK とは、中国政府が認定する中国語検定のことであり、全世界で 875 か所以上、118 の国と地域で実施され、広く認知されている。

2017 年 12 月 3 日、長崎短期大学は初めて HSK の試験会場に認定され、受験者 30 名（1 級 1 名、2 級 17 名、3 級 2 名、4 級 4 名、5 級 4 名、6 級 2 名）を受け入れた。30 名のうち、18 名が本学の国際コミュニケーション学科の 2 年生（2016 年度入学）であり、HSK1～4 級に受験した結果、16 名が合格できた。

本研究は、長崎短期大学における中国語教育の取り組みについて述べ、18 名の学生の HSK 受験結果を分析することを目的としている。また、HSK 対策としての中国語教育に関する先行研究および文献はいまだに少なく、そして短期大学生を研究対象にするものも、ほとんど見当たらないのが現状である。本研究ではこれからの短大における中国語教育の方向性と特徴解明のための手がかりを示したい。

### キーワード

HSK 中国語教育

### I. HSK の概況

HSK は「漢語水平考試（中国語能力試験）」のピンインである「HanyuShuipingKaoshi」の略である。1990 年、HSK は中国政府公認の中国語検定として誕生したのである。近年、中国は経済活動の場として注目されてきたため、中国語は特にコミュニケーション能力を養うことが強く求められるようになってきた。そのため、2010 年から、HSK の試験内容も一新され、会話などの口語表現が数多く出題され、コミュニケーション能力を測ることに重点が置かれるようになった。

また、新 HSK は 1 級から 6 級までに級が分けられ、合否およびスコアによって評価される。ここで熟達した言語使用者向けの 5、6 級について紹介する（1～4 級の詳細については次節にゆずる）。

級数	試験の程度	語彙量
6 級	中国語の情報をスムーズに読んだり聞いたりすることができ、会話や文章により、自分の見解を流暢に表現することができる。	5,000 語以上
5 級	中国語の新聞、雑誌を読んだり、中国語のテレビや映画を鑑賞したりすることができ、中国語を用いてスピーチを行うことができる。	2,500 語程度

### II. HSK4 級受験者 1 名

HSK4 級は、受験生の日常中国語の応用能力を判定するテストである。「幅広い範囲にわたる話題について、中国語でコミュニケーションをすることができ、中国語を母語とする者と流暢に話すことができる」<sup>1</sup>ことが求められる。1200 語程度の常用単語と文法知識を習得している受験者を対象としている。大学の第二外国語にお

ける第二年度後期履修程度の学習が目安とされている。聞き取り、読解、作文の配点はそれぞれ100点、合計300点で評価される。4級では6割（180点）以上のスコアが合格基準となっている。試験内容の詳細は以下のとおりである。

聞き取り：約30分・放送回数1回

パート	形式	問題数	配点
第1部分	放送される2つの短文の内容が一致するかを答える	10問	100点
第2部分	放送される短い会話の内容に関する問いに答える	15問	
第3部分	放送される長い会話や文の内容に関する問いに答える	20問	

読解：40分

パート	形式	問題数	配点
第1部分	文中の空所に適切な語句を補う	10問	100点
第2部分	短文を並べ替えて正しい文を作る	10問	
第3部分	短文の内容に関する問いに答える	20問	

書写：25分

パート	形式	問題数	配点
第1部分	与えられる語句を並び変えて文を作る	10問	100点
第2部分	写真の内容について、与えられた語句を使って文を作る	5問	

#### HSK4級の出題範囲

中国語の語順と文型	中国語の語順、形容詞述語文・比較構文・「是～的」の構文、介詞、能願動詞、様態補語、結果補語と方向補語・それを使った可能補語、「把」の構文・受け身構文・使役構文、アスペクトの構文、修飾語・語順が特殊な文・呼応の表現。
空所補充問題のキーワード	副詞の働き、動詞、いろいろな形容詞。
文と文の関係	関連詞、その他の表現と「就」「才」の用法。
短文・長文の読解	短文・長文読解の問題傾向と解くコツ。
聴解問題	正誤判断問題、選択問題。
作文問題	書写問題。

#### 合否結果分析

氏名 <sup>2</sup>	聞き取り (満点100)	読解 (満点100)	書写 (満点100)	総得点 (満点300)	合否 (合格180)
0401	50	55	52	157	不合格 (-23)

該当学生は本学に入学する前、中国語を学習したことがなかった。また、入学当初から韓国語に興味があり、韓国語クラスに入ったが、授業を3回程度受講したそうである。そして本人の要望により、履修を変えて、中国語クラスに入ったのである。1Qと2Qの成績評価はCであり、学習意欲もそれほど高くなかった。

しかし、3Qのギャップイヤーに入り、この学生は3ヶ月中国留学を選択した。留学期間中、本人の中国語のレベルが大幅に上昇し、特に聴解力と会話力が高くなったのである。4Q～8Qの中国語関連授業の成績評価もほぼAかSを獲得した。毎回の小テスト、期末テストの点数から見れば、この学生の総合能力は2016年度入学生の中では最も高いと言える。

HSK受験する前に、筆者は短大の中国語授業の中で、4級の書写問題を指導していなかったため、本人に3

級を勧めた。しかし、本人は就職活動のため、4 級にチャレンジすることにしたのである。結果を見てみると、すべてのパートの点数が合格ラインに達していなかった。試験後、学生からその原因を聞き、以下のようにまとめた。

- (1) 聞き取りの問題のなかに、練習の中ですでに覚えてしまった単語や文法事項でも、音声となると、聞き取れずに理解できないことが多かった。
- (2) 読解問題においては、文章の要点や主旨、テーマなどを問う問題があったが、それを読んで理解するには時間がかかりすぎた。
- (3) 書写問題を解く際に、「与えられた単語の品詞を考える」、「どのような構造の文を組み立てるのか考える」ことが大切だが、本人は「あまりこの二つのポイントを意識して練習してこなかった」と述べた。

### Ⅲ. HSK3 級受験者 2 名

HSK3 級は、受験生の日常中国語の応用能力を判定するテストである。「中国語を使って、生活、学習、仕事等における基本的なコミュニケーションができる。中国旅行の時も大多数の場合において中国語で対応することができる」<sup>3</sup>ことが求められる。600 語程度の常用単語と文法知識を習得している者を対象としている。大学の第二外国語における第二年度前期履修程度の学習が目安とされている。聞き取り、読解、作文の配点はそれぞれ 100 点、合計 300 点で評価される。3 級では 6 割 (180 点) 以上のスコアが合格基準となっている。試験内容の詳細は以下のとおりである。

聞き取り：約 35 分・放送回数 2 回

パート	形式	問題数	配点
第 1 部分	放送される会話の内容に一致する写真を選ぶ	10 問	100 点
第 2 部分	放送される 2 つの短文の内容が一致するかを答える	10 問	
第 3 部分	放送される短い会話の内容に関する問いに答える	10 問	
第 4 部分	放送される長い会話の内容に関する問いに答える	10 問	

読解：30 分

パート	形式	問題数	配点
第 1 部分	意味が通る短文を組み合わせる	10 問	100 点
第 2 部分	文中の空所に適切な語句を補う	10 問	
第 3 部分	短文の内容に関する問いに答える	10 問	

書写：15 分

パート	形式	問題数	配点
第 1 部分	与えられる語句を並び変えて文を作る	5 問	100 点
第 2 部分	文中の空所に当てはまる漢字を答える	5 問	

### HSK3 級の出題範囲

疑問文	数詞と量詞、疑問代詞を使った疑問文、正反疑問文と選択疑問文
副詞	程度の副詞、時間・範囲の副詞、語気・頻度の副詞
文の構成	介詞、能願動詞、定語と状語、「是～的」の構文、存現文と動詞の重ね型、使役と禁止の文、「把」の構文、受け身文、比較構文、進行と持続のアスペクト、完了と変化、経験と未来
補語	様態補語と程度補語、結果補語、方向補語

## 合否結果分析

氏名	聞き取り (満点 100)	読解 (満点 100)	書写 (満点 100)	総得点 (満点 300)	合否 (合格 180)
0301	71	90	89	250	合格 (+70)
0302	69	90	79	238	合格 (+58)

2名の学生は本学に入学する前、0301は中国語を学習したことがなく、0302は学習したことがある。また、0301は1Q～2Q、4Q～7Qの中国語関連科目をすべて履修し、単位を取得した。0302は1Q～2Qの中国語関連科目を履修したが、4Q～7Qに入ってから、中国語の代わりに英語関連科目を選んだ。そして、3Qのギャップイヤー期間中、2名とも中国3ヶ月留学に行き、語学力が大きく向上することができた。2名の点数を見てみると、すべてのパートの得点が合格ラインを超え、「聞く」、「読む」、「書く」の力を確実に身につけたことが分かる。

## IV. HSK2級受験者14名

HSK2級は、受験生の日常中国語の応用能力を判定するテストである。「身近な日常生活の話題について簡単に直接的な交流ができ、初級中国語の上位レベルに達している」<sup>4</sup>ことが求められる。300語程度の常用単語と文法知識を習得している者を対象としている。大学の第二外国語における第一年度後期履修程度の学習が目安とされている。聞き取り、読解の配点はそれぞれ100点、合計200点で評価される。2級では6割(120点)以上のスコアが合格基準となっている。試験内容の詳細は以下のとおりである。

聞き取り：約25分・放送回数2回

パート	形式	問題数	配点
第1部分	放送される短文が写真と一致するかを答える	10問	100点
第2部分	放送される短い会話の内容に一致する写真を選ぶ	10問	
第3部分	放送される短い会話の内容に関する問いに答える	10問	
第4部分	放送される長い会話の内容に関する問いに答える	5問	

読解：22分

パート	形式	問題数	配点
第1部分	短文に一致する写真を選ぶ	5問	100点
第2部分	文中の空所に適切な語句を補う	5問	
第3部分	2つの短文の内容が一致するかを答える	5問	
第4部分	意味が通る文になるよう、短文を組み合わせる	10問	

## HSK2級の出題範囲

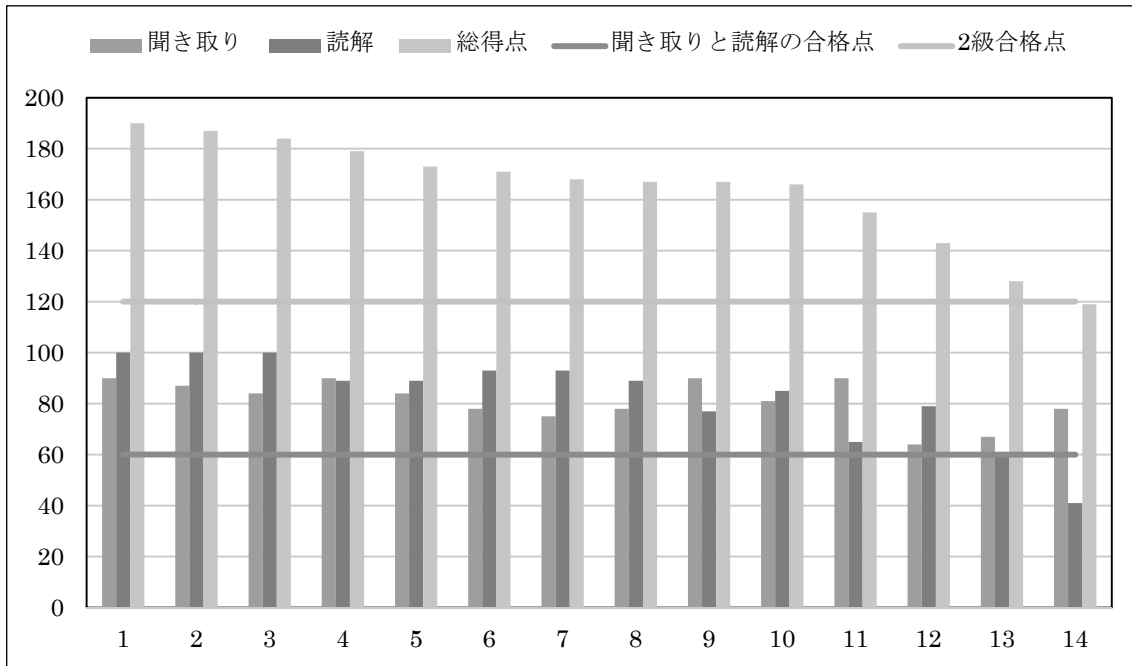
文の構成	数字表現、量詞の使い方、介詞、能願動詞、動詞述語文、副詞、疑問文、禁止・使役の表現、語気助詞、補語、複文
アスペクト	完了のアスペクト、進行・持続のアスペクト、経験・将来のアスペクト

## 合否結果分析

氏名	聞き取り (満点 100)	読解 (満点 100)	総得点 (満点 200)	合否 (合格 120)
0201	90	100	190	合格 (+70)
0202	87	100	187	合格 (+67)
0203	84	100	184	合格 (+64)
0204	90	89	179	合格 (+59)
0205	84	89	173	合格 (+53)
0206	78	93	171	合格 (+51)
0207	75	93	168	合格 (+48)
0208	78	89	167	合格 (+47)
0209	90	77	167	合格 (+47)
0210	81	85	166	合格 (+46)
0211	90	65	155	合格 (+35)
0212	64	79	143	合格 (+23)
0213	67	61	128	合格 (+8)
0214	78	41	119	不合格 (-1)

14名の受験結果を見てみると、聞き取りの平均点数は81点、読解の平均点数は83点、総得点の平均点数は164点であり、合格率が93%（合格13名、不合格1名）である。14名学生のうち、本学に入学する前、中国語を学習したことがあったのは4名である（0202、0203、0206、0207）。4名とも検定の得点が上位に入ったため、高校時代での中国語教育の効果が現れたと思われる。また、14名のうち、1名を除き、13名が1Q～2Q、4Q～7Qの中国語関連科目をすべて履修し、単位を取得したが、3Qのギャップイヤー期間中、12名がインターンシップ（熊本、長崎、沖縄など）を選び、2名がカナダ留学に行き、中国3ヶ月留学生はいなかった。2級受験生たちは1Q、2Qの4ヶ月間の中国語授業を通して、中国語学習の最初の難関である発音をクリアしたところ、3ヶ月のブランクを空けたことになった。もし、この3ヶ月の時間を有効的に使えば、全員がワンランク上の目標を達成することができることも考えられる。

わずか1点差で検定に落ちた学生の得点を見てみると、聞き取り問題では、合格ラインより18点も高い点数を獲得したが、ほかの受験者に比べ、得点しやすい読解問題では、合格ラインより19点低い点数を取った。この学生は、1Q～2Q、4Q～5Qの授業をまじめに受けてきたが、6Q～7Qに入ると、就職活動のため、授業の遅刻・欠席が目立ってきたのである。6Q～7Qの中国語関連授業は主に HSK 受験対策を中心に行われてきたため、授業の欠席が不合格の要因であると考えられる（グラフを参照）。



14名のうち、読解の点数が聞き取りの点数より高いのは9名であり、64%を占めた。この結果は受験者の多くはリスニングが読解より苦手だということを示した。2級の聞き取りと読解問題の詳細は以下のとおりである。

(1) 聞き取りの第一部分は正誤判断の問題であり、あらかじめ写真を見て、短文の内容を予測しておくことがポイントである。第二部分は会話の内容から写真を選択する問題であり、特に例題を除いて5つの写真が与えられるので、すべての選択肢が1回ずつ選ばれるようになっていることを注意する必要がある。第三、第四部分は2人の会話とその内容に関する問いであり、あらかじめ3つの選択肢に目を通しておくことが正解を導くコツとなる。しかも、選択肢にはピンインが書いてあるので、聞き取る際のヒントになる。

(2) 読解の第一部分は与えられた短文を読み取り、その内容と一致する写真を選ぶ問題であり、写真は例題を除いて5つ与えられており、すべての選択肢が1回ずつ選ばれるようになっている。第二部分は短文の空所部分に適切な語句を補い、意味の通る文章を作る問題であり、2級の出題範囲にある文法を理解することがポイントである。第三部分は正誤判断の問題であり、第四部分は与えられた短文に対し、関連・対応する文を選ぶ問題である。特に第四部分は2人の会話や1人の発話を組み合わせるだけでなく、ある場面を述べた文とその場面で言うセリフを組み合わせる問題も出題される。また、対話の場合、問題文と選択肢のどちらが先になるかは一定ではないので、受験生たちに注意を促した。

読解問題を解くときに、理解できない部分は繰り返して読むことができる。そして、漢字に馴染みがある日本人学習者にとっては、分からない単語が一つ、二つあっても、文法のポイントを少し忘れても、前後の文脈である程度の内容を理解することができる。これと対照的に、聞き取り問題は2回（2級の場合）しか放送されない。このため、筆者は試験対策の授業の中で、学生たちに、①単語の暗記は声を出して覚える、②聞き取り問題の細部にあまりこだわらずに全体の概要を理解するように努める、と指導した。

## V. HSK1 級受験者1名

HSK1 級は、受験生の日常中国語の応用能力を判定するテストである。「中国語の非常に簡単な単語とフレーズを理解、使用することができ、具体的なコミュニケーションを行うことができる。中国語学習するための基礎能力も備えている。」<sup>5</sup>ことが求められる。150 語程度の常用単語と文法知識を習得している者を対象としている。大学の第二外国語における第一年度前期履修程度の学習が目安とされている。聞き取り、読解の配点はそれぞれ100点、合計200点で評価される。1級では6割（120点）以上のスコアが合格基準となっている。

試験内容の詳細は以下のとおりである。

聞き取り：約 15 分・放送回数 2 回

パート	形式	問題数	配点
第 1 部分	放送される語句が写真と一致するかを答える	5 問	100 点
第 2 部分	放送される短文の内容に一致する写真を選ぶ	5 問	
第 3 部分	放送される会話の内容に一致する写真を選ぶ	5 問	
第 4 部分	放送される短文の内容に関する問いに答える	5 問	

読解：17 分

パート	形式	問題数	配点
第 1 部分	語句が写真と一致するかを答える	5 問	100 点
第 2 部分	短文に一致する写真を選ぶ	5 問	
第 3 部分	短い疑問文とその答えを組み合わせる	5 問	
第 4 部分	文中の空所に適切な語句を補う	5 問	

HSK1 級の出題範囲

文の構成	動詞述語文、形容詞述語文、名詞述語文、疑問文
応用	数詞と量詞、存在と場所、「在」の用法、能願動詞

合否結果分析

氏名	聞き取り (満点 100)	読解 (満点 100)	総得点 (満点 200)	合否 (合格 120)
0101	82	88	170	合格 (+50)

この学生は本学に入学する前、中国語を学習したことがなかったが、1Q～2Q、4Q～7Q の中国語関連科目をすべて履修し、単位を取得した。3Q のギャップイヤー期間中、インターンシップ（熊本、長崎、沖縄など）を選択し、中国 3 ヶ月留学には行かなかった。

検定に申し込む時、この学生に 2 級の受験を進めたが、本人が「自信がない」ため、1 級を受けたのである。受験結果を見てみると、合格ラインより 50 点も高い点数が取れたため、2 級合格できる力を本人が持っていると思われる。

## VI. まとめ

筆者が本学の国際コミュニケーション学科に着任したのは 2013 年の 4 月であり、当時の中国語の関連科目の履修者はわずか 4、5 名程度で、教員 1 人対学生 1 人の科目もあった。英語、韓国語より中国語履修者が少ない理由としては、①中国の社会、文化、歴史などに興味を持つ学生が少ない、②マスコミの報道によって、中国に対するイメージが良くない、③発音が難しい、などが挙げられる。

本学が大学教育再生加速プログラム (AP 事業) に採択された以来、筆者は意欲的に 3 ヶ月中国留学先を開拓し、HSK 資格の取得を短大の中国語教育の目玉にしてきた。その結果、2016 年度の「中国語 I 基礎」の履修者が 37 名、「中国語会話」が 33 名、「中国語 (発展)」が 32 名となり、2017 年度の「中国語 II」の履修者が 27 名、「ライティング & グラマー II」18 名、「外国語検定 (中国語) II」13 名にのぼり、いずれも英語、韓国語関連科目の履修者数を超えることになった。そして、本学の 18 名の学生が 2 年間の授業を受講し、うち 16 名が HSK に合格し、合格率が 89% (不合格 2 名) に達したのである。これらの成果によって、長崎短期大学の中国語教育が大きな

一步を前進することができたと言えよう。そして、中国語の学習意欲が決して高いとは言えない短大生にとって、どのように将来の進路や職業などと結び付け、主体的に学習に取り組む態度などを含めて育てていくことが重要である。この観点から、これからの短大における中国語教育の方向性は、中国語を知識上としてだけでなく、HSKなどの語学資格の取得に重点を置いて、学習・指導方法、評価方法の改善・充実を図っていくことであろう。

無論、3ヶ月留学でどのような中国語学習カリキュラムで教育を受けたか、また3ヶ月留学した学生としていない学生の間に有意義な違いが生じたかどうかについては、結果検証および研究調査が必要であるが、紙幅の制限により、別稿に譲ることとする。

#### 参考文献

1. 胡玉華、「中国語教育とコミュニケーション能力の育成」、東方書店、2009年。
2. 日本中国語学会ソフトアカデミズム検討委員会、「日本の中国語教育－その現状と課題」、好文出版、2002年。
3. 宮岸雄介、「中国語検定 HSK 公認テキスト 4 級」、株式会社スプリックス、2015年。
4. 宮岸雄介、「中国語検定 HSK 公認テキスト 3 級」、株式会社スプリックス、2016年。
5. 宮岸雄介、「中国語検定 HSK 公認テキスト 2 級」、株式会社スプリックス、2016年。
6. 宮岸雄介、「中国語検定 HSK 公認テキスト 1 級」、株式会社スプリックス、2012年。

---

<sup>1</sup> 宮岸雄介、2015年：14頁。

<sup>2</sup> 個人情報保護のため、本文・図表の中で学生が特定されないようにする責務がある。よって、番号で学生氏名を表示する。番号は受験する級数と総得点の順番に分けて表示する。例えば4級受験者は04であり、総得点の順番は1位の場合は、該当学生の氏名を「0401」とする。

<sup>3</sup> 宮岸雄介、「中国語検定 HSK 公認テキスト 3 級」、2016年：12頁。

<sup>4</sup> 宮岸雄介、「中国語検定 HSK 公認テキスト 2 級」、2016年：12頁。

<sup>5</sup> 宮岸雄介、2012年：10頁。